

『私たちの海 —防災とまちづくり—』

私たちの海 —防災とまちづくり—

開催日：平成26年11月1日(土) 12:50~16:30

開催場所：東北工業大学 八木山キャンパス 937 教室

仙台市太白区八木山香澄町 35-1 (アクセス www.tohtech.ac.jp/access/index.html)

参加費：無料

共催：日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会・東北工業大学

後援：宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・東北地理学会

河北新報社・教育新聞社・建設新聞社・TBC 東北放送・仙台放送

古より日本列島に生活してきた我々に、海は多くの恵みを与え続けてくれ、これからも新しいエネルギーや資源を与えてくれる力を持っています。その一方で、時には大きな災害をもたらすのも海です。

海からの恵みを得るため、また、海からの災害に対処するため、これらの分野の人材を育て、そして海と上手に付き合える社会(まち)を築いていく必要があります。そのために我々は、まず、海のことをよく知らねばなりません。

今回は、「防災とまちづくり」をテーマとして、防災に主眼を置きつつ海の恵みにも触れた内容も取り上げて、海との付き合い方の見識を深めていきたいと思っております。

そこで、あの巨大津波による被害の特質を認識し、気候変動の下で危険度がまた高潮にも注意して生活するため、また、海岸の町では何を守るべきかの視点を持つため、また一方で、海の恵みである漁業資源の未来を探るため、右記の方々のお話を伺うことといたしました。

講師の方々には特にわかりやすい内容にさせていただいておりますので、海との付き合い方を考える絶好の機会です。

多数の皆様のご来場(自家用車も可)をいただき、そして、皆様のいろいろな視点からのご意見もいただければ、とても幸いです。

プログラム

12:50	開会あいさつ◎小林 正典 海洋教育推進委員会委員長 宮城 光信 東北工業大学学長
13:00	1. 津波を知る —津波およびその被害の特質と防災・減災のための視点— 今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所 教授
13:35	2. 海岸の町で —地域の特性や生態系を活かした津波防災— 阿部 正人 小泉海岸及び津谷川の災害復旧事業を学び合う会
14:10	<意見交換>
14:50	3. 海の恵み —未来の漁業と非常時の海からの支援— 刑部 真弘 東京海洋大学大学院教授
15:25	4. 高潮に注意 —台風ハイエンによるフィリピンの高潮災害を事例として— 真野 明 東北大学災害科学国際研究所 教授
16:00	<意見交換> 閉会のあいさつ◎新井 信一 実行委員会委員長

【参加申し込み方法】

①Web の場合：

<https://www.webmasters.co.jp/jsn-event/20141101/>

②E-mail の場合：me.jasnaoe@gmail.com

③Fax の場合：022-305-3538 (裏面書式をご利用ください)

「第9回海洋教育フォーラム参加申し込み」、「氏名」、「所属」、「連絡先」を記入して送信してください。(先着200名・申込締切10月30日)

【問合せ先】

東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科

仙台市太白区八木山香澄町 35-1

Phone and Fax：022-305-3538 (防災共同研究室)

Email：s.arai@tohtech.ac.jp

もしくは Phone：022-305-3500 (学科事務室)

